

高野裕久 教授

医学部に入学・卒業し、現在は工学部の教授を勤めるという、異色の経歴を持つ高野教授にお話を伺った。(霞草)



教授の学生時代

——医学部を目指されたきっかけは？
高2の頃、結構勉強ができる友人たちがいました。1人は英語と国語が、そしてもう1人は数学と物理がとてもよくできる。一方、僕はどちらかっていうと全般的にそれなりにという感じで……。大学に入って専門的な分野でこんなやつらと勝負しないといけないのかなと思ったときに、満遍なくできてなおかつ社会のために役立つのは医者が一番かなという事で医学部に行こうと思いました。もちろん、昔から人の命とか健康に興味があったというのも理由の一つです。

——どのような大学生でしたか？
大学に入った後、教養の2年間くらいはほとんど講義には出なかったです。昔の学生って授業に出ないのが当たり前みたいなのがあったので。ただ学年が上がって専門過程に入ると、実習も始まるので、真面目な生活をするようになりました。大学の5、6年生くらいになると国家試験も待ち受けているので、自分でも驚くくらい勉強しましたね。どうせこれだけ勉強しないといけないんだら高校時代もっと勉強しておけばよかったかな、と思うくらい勉強していました。

臨床医から研究者の道へ

——卒業後の進路は？
卒業後は一般的な臨床医になろうと思っていました。医者の基本的な姿が内科だと考えていたので内科に進みました。学生時代もそうだったんですが、その頃は特に研究をしたいとは思ってなくて、臨床医の一般的なステップしか踏んでいなかったですね。
ただ、臨床医として何年も現場で臨床していると、いろいろな問題に直面することになります。その問題を解決するにはどうしたらいいかなって考え、やっぱり研究したいと思うようになりました。もう30歳を過ぎてたんですがそこから研究を始めたんです。皆さんなら博士号を取って、もう働いてるような年齢でやっと研究を始めたような形でしたね。

——その後の経緯は？
まずは大学で研究を始め、その後、国立環境研究所（以下、環境研）の先生が僕の研究に目を留めてくれて、一緒に研究をしないかというお誘いがありました。お話を聞いてみると、研究環境もいいし、権威ある雑誌にも成果を載せているという研究室だったので、行くことに決めました。研究を職業にしたのはその時からで、37歳になる頃でした。

その後大学の医局から一旦病院に戻れと言われたので、臨床に戻りました。3年間研究もしたし、それなりに結果が出せた満足感もあり、もう研究はやめて故郷の病院で臨床しようかなと思い、出身地の大病院の面接に行ったりもしました。ただ、当時の大学の上司から辞めるのはもう少し先にして欲しかったと頼まれて……。そこですぐ辞めなかった結果、環境研からまたお誘いがあったんです。そこからは研究一筋です。
そして12年間そこで研究し、学生時代に住んでいた地である京都に戻れそうだったということもあり、現職に就いたという流れです。

高野裕久教授プロフィール

1984	京都府立医科大学を卒業 その後神戸等の病院に勤務
1994	学位（医学）を取得
1995	国立環境研究所にて主任研究員に着任
2005	同研究所領域長に就任
2011	現職に着任

現在されている研究について

——現在の研究について教えてください。
環境汚染物質が、特に免疫系や呼吸器系に及ぼす健康影響を研究をしています。具体的には、PM2.5（下コラム参照）やカーテンに含まれている難燃剤、プラスチックに含まれている可塑剤など、身の回りにある化学物質が健康に及ぼす悪影響を調べているわけです。細胞や生物の身体を壊すような強力な作用はあまり無いのです。ただ、そういった強い毒性以外にも健康に悪影響を及ぼすことがあるんです。
僕はそのことを攪乱影響って呼んでいますが、そのわかりやすい例としてアレルギーが挙げられますね。アレルギーは我々の身体の免疫細胞が死んだり、弱ったりしているわけではないんです。逆に、不適切に活性化されて、普段は反応しなくていいようなものに反応して影響が起こる。要するに毒性ではなく、そういった不適切な活性化によっても僕らの健康に影響が起こるんだということです。そういう作用を今の環境汚染物質・環境化学物質が持っていないんだろうかということ調べています。また、最近はその細胞レベルでのメカニズムの解明も目指しています。

——PM2.5に関する研究をされているのが意外です。
最近、工学部でも環境を取り扱う部分は多いです。機械でも人間に役立つという発想だけでなく、健康によいという発想も必要です。たとえば空気清浄機が空気をきれいにするのは、人間の健康保全や向上を目指しているわけです。
僕は本当に環境を考えるのは工学じゃないとできない部分も大きいと思うんです。環境を壊してしまうのも工学かもしれないけれど、逆に環境を保つのも工学が一番であろうと思っています。その点をもっとアピールしていきたいですね。

はみだしすてーじ
後期からはがんばると思っていたのに。
⇒年明けからはがんばると思っていたのに。

今の京大生へ

——京大生に向けてメッセージをお願いします。
基礎的な科学にしても、我々が住んでいる社会にしても、いろいろな問題がありますよね？ 完璧な科学もなければ、完璧な社会もないし、問題は絶対そこかしこに転がっています。だから、身の回りのことでもいいし大きな問題でも何でもいいと思うのですが、問題意識を持って、その問題を捉えて、いかに解決していくか。そういうことを研究でもいいですし、仕事でもいいですし、社会活動でも構いませんし、考えていってほしいです。
そのときに、どんな重箱の隅のような小さい領域・分野でもいいんですけども、やはり京大生である限りは世界のトップを目指してもらいたいですね。あとは自分の経験から考えると、何かを始めるのはいつでも遅くはないんだということです。僕が研究を本格的に始めたのは35歳を過ぎてからですし、やろうと思えばいつでも始められるんです。たとえば2、3年遅れたって、2、3年長生きしたら一緒なわけです。まず何か自分がやりたいな、やってみたいと思うことがあればいつでも勇気を持って一歩を踏み出してほしいし、手を出して取りかかってほしいと思います。決して遅いってことはないはずなので。

——工学部で環境に関する研究をされているのが意外です。
最近、工学部でも環境を取り扱う部分は多いです。機械でも人間に役立つという発想だけでなく、健康によいという発想も必要です。たとえば空気清浄機が空気をきれいにするのは、人間の健康保全や向上を目指しているわけです。
僕は本当に環境を考えるのは工学じゃないとできない部分も大きいと思うんです。環境を壊してしまうのも工学かもしれないけれど、逆に環境を保つのも工学が一番であろうと思っています。その点をもっとアピールしていきたいですね。

はみだしすてーじ
後期からはがんばると思っていたのに。
⇒年明けからはがんばると思っていたのに。

